

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900083		
法人名	医療法人社団 寿光会		
事業所名	グループホームいきいきの家香取		
所在地	〒287-0041 千葉県香取市玉造1丁目4番地1		
自己評価作成日	平成24年 10月 29日	評価結果市町村受理日	平成24年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成 24年 11月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の一角にあり、窓からは四季を感じることでできる田んぼが見えます。近隣にはドラックストアがあり入居者様ご自分で買い物に行うことができます。毎週訪問診療・訪問看護が実施され医療面でも安心です。他科受診も対応しております。職員全員、質の高いケアを目指し個人の尊厳を守りながら、暖かみのある家庭的な生活が送れるような施設作りを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年2月に新設した田園風景豊かな場所にある、瀟洒な平屋造りの2ユニットのホームである。日々の暮らしに変化と刺激を持っていただくため、ホーム独自に運動会を開催したり地域の祭りや菊の観賞会など、利用者の暮らしにメリハリをつける工夫に余念がない。また、より良い運営とサービスの質の向上に向け開設当初から運営推進会議を1ヶ月おきに開催している。更に、管理者は地域との結びつきを大切に考え、自治会に加入して地域行事やゴミ拾い・草むしりなどの清掃活動にも積極的に参加している。運営推進会議には地域自治会長の参加を得て、色々な意見や提案を頂戴できる体制を着実に整えている。また医療法人運営のホームである特性を活かし、訪問診療・訪問看護が毎週確実に実施されており、医療連携がうまく取れている点も大きな特徴で、利用者・家族にとって大きな安心感に繋がっている。開設に当って職員全員で考え出した「利用者の笑顔・地域に根差す・利用者の尊厳を守る・温かい家庭的な生活」の理念の実践に向けて職員全体が日々努力している素晴らしいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員全員で考え作った理念であり、その理念を目標とし、取り組んでいる。	開設時に、法人の理念以外に職員全員で考えた「皆様の笑顔が元気の源とし地域に密着した質の高いケアを目指し、香取の豊かな自然の中で個人の尊厳を守りながら、温かみのある家庭的な生活が送れるようお手伝いする」の理念を掲げている。全員で作った理念ゆえ受け入れやすく、日々実践に繋げる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し交通安全指導、清掃活動、地域行事に積極的に参加している。散歩時に挨拶も交わしたりしている。	ホーム開設と同時に地区自治会に入り、ゴミ拾いや草むしりなどの清掃活動や地域行事に積極的に参加し地域との交流に努めている。また散歩時には挨拶も交わしている。管理者は地域住民に認知症についての理解をして戴く努力をしたいと更に意欲的である。工夫しながら地道に実現されることを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などの参加を呼びかけ、認知症の方の理解を得る場を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、日常生活状況報告など定期的におこなっている。又、意見を参考にしサービスの向上に努めている。	地区の自治会長・民生委員・市職員・地域包括支援センター・家族の構成による運営推進会議を一か月おきに開催しており、行事の反省会や避難訓練時の利用者の救出方法、夜間想定訓練の必要性など議事録からは充実した会議内容が窺われ優れている。	次回の運営推進会議には今回の外部評価結果をテーマとして挙げ、参加メンバーから意見をいただいて、ホーム運営とサービスの質向上に繋がれるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず市より担当職員の方の参加がある。情報交換や相談を行っている。	市の高齢者福祉課から運営推進会議には必ず参加して頂いており、ホームの実情を知っていただくと共に適時相談をしている。また市からの情報も常に得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。身体拘束のないケアにとりくんでいる。ミーティングなどで話し合い共通の認識を持つ努力をしている。	契約書に拘束をしないケアを明記し、契約時にリスクについても説明して理解を求めている。職員は身体拘束のないケアに取り組んでいて、日中の玄関の施錠はしておらず、外出する利用者には職員付き添いで支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起こらない環境を作り、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性の高い方については話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を心がけ不安を解消できるように話し合いをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話連絡等意見や要望を聞き、ミーティングに取り上げ話し合いを行っている。	運営推進会議には毎回数名の家族の参加があり、この場で意見・要望を聞き取っている。また面会時や電話連絡などでも希望を聞きミーティング時に取り上げ運営に反映させている。また毎月「生活状況のお知らせ」を利用者一人ひとりに写真付きで詳細に発信して情報の共有を図り、意見交換もなされているため、家族アンケートでは安心と満足の声が多く寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の業務内やユニット別のミーティングなどでも聞いている。	ミーティング時や業務中に職員の意見を聞き運営に活かしている。個人面談も実施している。利用者にとってどうしてあげたらいいかをカンファレンス以外にも職員同士や管理者と意見を出し合える土壌ができていることが、職員インタビューから窺う事ができた。希望休暇なども取り入れ働きがいのある職場となっている。	管理者・職員との意見交換やコミュニケーションは巧くとれているが、業務の関係上職員全員参加の会議がないので、みんなで運営について意見を交わし合う機会作りを検討されるよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に面接を行い、意見を取り入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は必要に応じて参加している。 内部研修も定期的開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域が主催しているものに積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安に思っていること、困っていることを聞きながら、安心して生活が送れる方法を考え支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見を聞きながら、支援に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受診や他のサービスが必要と判断した場合には、スムーズに利用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活を大切にし、出来ることはご自分でやって頂き、その他はその方にあった支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度お便りを出し状態を共有している。面会時には、ゆったり過ごして頂けるような環境作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力の基、自宅への外泊、希望の場所への外出など行っている。	馴染みの人との関係が途切れないよう、来訪を歓迎しており、現在親戚や友人の面会がみられている。また家族の協力を得て、自宅への外泊や馴染みの場所への外出などを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を把握し孤立、対立しないよう心掛けている。また、一人の時間も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅へ帰ったあとのサービスなどの情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に、日常生活についての希望を伺い、希望に添えるよう支援をおこなっている。	基本的に利用者本人と家族から日頃の生活についての希望や要望を聞いて、これに沿える支援を行なっている。思いや意向の把握が困難な場合は、共に暮らす中でじっくり時間をかけ、見守りや観察、或いは表情の変化等から思いの把握に努めている。	利用者・家族から得た情報や、職員達が日頃得た情報などは利用者毎に「記録」し共有できるよう希望する。センター方式等の利用を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族に伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の状況を、毎日記録し、状況の変化を把握する。ケアカンファレンスなどで現状の残存機能について話し合う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を取り入れたケアプランを作成している。	管理者・現場職員・ケアマネージャーなどによるカンファレンスで現状の残存能力について話し合い、利用者・家族の意向もいれ、介護計画を作成している。作成に当たって現場職員の意見・アイデアが多くとりいれられている事が確認できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の状態を毎日記録し、状況の変化の把握に努め、情報を共有し実践やプランに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、買い物、病院などの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域が主催しているものを見学に出かけたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の希望を確認している。受診時に適切に病状を伝えられるよう心がけ、その結果についてその都度、家族に報告している。	かかりつけ医へは家族付き添いで受診している。毎週訪問看護(火)往診(木)が実施されており、利用者の状態を受診ノートに記録し情報の共有をしている。急変時には即刻電話にてご家族へ連絡のうえ受診できるなど受診体制が確実に構築され良く機能しているため、利用者・家族にとって大きな安心感が得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子を記録し、訪問看護師に伝え、相談指示を仰いでいる。必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	ソーシャルワーカーや主治医、担当看護師と連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合い、書面にて説明している。	施設の方針として「重度化した場合における対応に関する指針」を説明して同意・納得して頂いている。管理者は、今後利用者・家族の希望がある場合、看取り迄行える体制と態勢作りを目指している。法人本部と充分検討を行なわれるよう期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の方法を常に目につくところに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、消防避難訓練を行っている	運営推進会議にて夜間を想定した訓練の提案があり、12月に実施予定である。近隣の自治会長・民生委員・住民の協力を得た訓練も予定されている。また、緊急連絡網は整備されており、備蓄品も確保されている。	万が一に備えて利用者を全員無事に避難誘導できるよう、定期的に訓練を実施して習熟度をあげられるよう希望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を行い、日頃より指導している。	開設講習時に、接遇のマニュアルは各自に配布し学習している。毎日の接遇面で気が付いた点があればその都度指導している。スキルアップにむけ職員同士でも互いに注意し合っている。	同質の接遇ができるよう、マニュアルを使っての全員参加の短時間の勉強会開催を検討されるよう望みたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを伝えやすい環境づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買い物、食事の時間などその方に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みに応じている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じて、手伝って頂いている。	委託業者からの材料で利用者の状態に合わせた調理にしている。それぞれの能力に応じて配膳・後片付け等がされている。職員と一緒に食事では楽しい会話が弾んでおり、アンケートには美味しいとの声が出ている。また、利用者同志の相性等考慮して坐る位置関係にも気を配り、雰囲気の良い食事時間になっていることが場面観察時に確認できた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表、食事チェック表を活用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個々の排泄の状態を把握し、適時に支援を行っている	排泄チェック表・水分チェック表・摂取チェック表にて個々の情報が共有されていて、適時誘導して自立排便になるよう支援されている。トイレ誘導にも本人の尊厳を傷つけない支援がなされていることが聞き取り調査から窺えた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分補給に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やその日の状況、希望に応じて対応している。	個人の思いを基本にして、ドア越しに見守りや同時入浴介助等希望に沿った支援がされている。脱着衣の場所にはエアコンが設置されており、ヒートショック防止に配慮されている。入浴後にはスキンケア用品が用意されていて健康面への配慮にも余念がない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じ休んで頂く。寝具等の洗濯、布団干しなど気持ち良く休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用や副作用を主治医に確認し、薬剤師による薬剤指導を受けている。職員2名で確認し、間違えのないよう服用して頂くよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、掃除、制作等できること楽しんで頂けるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物など個々の希望に応じている。地域の祭りに見学に出かける等支援している。	車イス4名・自立歩行14名で、班ごとにホーム周りの農道を40分位かけ安全・安心な外出散歩を日課として実施しているが強要はしていない。外出する利用者には納得するまで付き添い見守りを行っている。地域の祭りや菊・コスモスの観賞の為の外出等を実施している。管理者は今後イベントとしての外出を更に多く企画検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は、本人の希望、家族の意向を伺い、状況に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の要望に応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等に季節の飾りつけを行っている。	広く長い廊下と、清潔感溢れる居間には職員・利用者で作成した季節を演出する切り絵や写真で飾り付けがされてある。ベランダにはプランタで花を作っており、広い窓からは田園風景が見渡せて季節の移り変わりが実感できる。また一人になれるソファもあり寛げる空間となっている。家族からの差し入れの花も時々飾られ、居心地の良い共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどで気の合った利用者同士で話をされたり、ゆっくりくつろげる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ物を持ってきて頂き、居室は使いやすいよう設置、飾りつけをして頂いている。	クローゼット・エアコンが設置された部屋には慣れ親しんだ物で飾り付けをして頂いている。ペット・布団等自由に持ち込んであった。部屋の温度や明るさは本人の希望にあわせて、担当者が適時対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーとなっている。トイレ、洗面所など解るようにしている。		